

授業力ブラッシュアップ研修会Ⅲ

今回は前回に引き続き、今年度の授業力ブラッシュアップ研修会「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業はどうあればよいかをテーマに提案授業・講義・演習を実施した、小学校道徳の研修会の様子を紹介します。

小学校 道徳

道徳的価値を自分の問題として主体的に考え、自己を見つめ、自己の生き方について考えを深めるための問題解決的な学習の在り方

主題名 友達だから 【B 友情、信頼】「大きな絵はがき 東京書籍 新しい道徳4」第4学年
授業者：奥州市立胆沢第一小学校 教諭 菊地 忍 / 助言者：帝京大学大学院 教授 赤堀 博行 先生

★子どもが道徳的問題に対して、自分との関わりで捉え、課題意識を明確にもつことができるような導入の在り方
本時と同じ価値内容の学習後から始めた「やさしくしてくれてありがとうカード」の中から親切にしてもらった経験を交流し合い、「友達」の捉えを多角的に考えさせるとともに「友達のことを考えて行動するとは？」という課題意識をもたせた。

★子どもが道徳的価値を自分との関わりで考え、多面的・多角的に考えることができるような話し合いの在り方
自分の考えをもたせたうえで話し合う場面では、出された複数の価値を類型化し板書した。指導者が児童の考えを相互に関わらせたり、補助発問により考えを掘り下げたりし、人間理解と他者理解を図りながら話し合いを進めることで、道徳的価値を多面的・多角的に考えさせることができた。

★子ども一人一人が道徳的価値をもとに自己を見つめることができようとするための展開後段の工夫

「友達のことを考えて言いづらいことを話したことがあるか。」という発問で、自己を見つめさせる学習活動を行った。子ども達は本時の学びで深めた「友達のことを考えて行動すること」の価値観を視点とし、これまでの生活を振り返りながらこれからの自分の生活についての考えを深めることができていた。書く活動を取り入れたことによって、どの子どももじっくりと道徳的価値、そして、自分自身と向き合うことができた。



講義

「道徳の授業づくりで大切なことと評価の在り方」講師：帝京大学大学院 教授 赤堀 博行 先生

(1) 道徳教育の抜本的改善・充実

発達段階ごとに設定されたすべての内容項目を確実に取り上げ、道徳科を要とする道徳教育で道徳性を育てていくことが大切である。道徳科では、学習指導要領に示された多様な指導方法を授業改善の視点とし、対話の中で思いや考えに迫ったり、道徳上の問題に気付いたりする授業を目指していきたい。

(2) 道徳科の評価について

道徳科では、子どもの「道徳性」については評価しない。なぜなら、「道徳性」は内面的資質であり、評価することはできないからである。しかし、道徳科の授業では、子どもの「道徳性」を養うことがねらいである。そこで、子ども一人一人が道徳科の授業において道徳性を養うプロセス、すなわち、①子どもの学習状況（単位時間の中での学びの姿：ア 道徳的価値の理解。イ 自己を見つめる。ウ 物事を多面的・多角的に考える。エ 自己の生き方について考えを深める。について顕著な状況が見られたもの。）②道徳性に係る成長の様子（前述ア～エの学びの姿について、学期や年間を通してどのように成長したのか。）を評価する。そのためにも、明確な目標に基づく授業を着実に行う必要があり、子どもが主体的に学ぶ一時間一時間の授業を大切にしていくことを重視している。道徳科の評価は指導改善へつなげるものであると同時に、子どもたちの学びのよさや学びの成長の様子を積極的に認め励まし、子どもたちが自信をもってよりよく生きることができるようにしていくことも大切な視点の一つである。

(3) 指導観を明確にした授業構想

「考え、議論する道徳」を実現するためには、指導要領解説をもとに教師が内容項目についての理解を深め、【教師の価値観】を明確にすること大切である。そして、価値観に関わる子どものよさや課題を明らかにして、子どもたちに授業で何を考えさせたいのか【児童生徒観】、教材をどのように活用するのか【教材観】等の「明確な指導観」を確立することが何よりも重要である。明確な指導観は授業の骨格であり、筋の通ったふれぬい授業構想につながる。

授業をどのように流すかという視点ではなく、教師の明確な指導観をもとにした授業づくりがより一層求められる。

道徳科学習指導案	
主題名 ねらい 判断力、心情、実践意欲、態度 教材 主題設定の理由：指導観 <input type="checkbox"/> ねらいとする道徳的価値（教師の価値観） ねらいとする道徳的価値に関して最も大切にしていること。 A <input type="checkbox"/> 児童生徒の実態（児童、生徒観） A について指導した結果としての児童生徒のよさや課題 その上立って考えさせるべきこと B <input type="checkbox"/> 教材について（教材観） B について教材を活用してどのように考えさせるのか。	学習指導過程 学習指導過程 B 学習問題 B 中心発問 B 振り返り

「授業づくりの流れ」赤堀教授のスライドから